

輝く力



選手や研究者と交流深める場も

生物学

生物学オリンピックは、生物学、そして生き物に強い関心のある中学生・高校生等を対象に、生物学の知識と実験技術を競うコンテストである。

まず生徒は、7月に実施される予選に参加することから始まる。出題形式はマークシート形式で、全都道府県約100カ所に設けられる予選会場で受験する。受験者は3千〜4千人。予選の成績上位80人が本選に進む。本選は2〜3泊の合宿形式、毎年異なる大学で開催され、選手は歯応えのある実験試験に挑む。ここでは半数の選手に金・銀・銅のメダルが授与される他、成績上位者には特別

賞、そして国際大会の選手候補約12人が選ばれる。翌年、最終選抜により選ばれた日本代表4人が国際大会に参加し、世界各国から参加する選手(約70カ国、約300人)と約1週間にわたり知識・技術を競う。

大会の概要は以上の通りで

あるが、国際大会への派遣選手を選抜することだけが活動の目的ではない。もう一つの重要な目的は、生物好きが集まり交流を深める場を提供することにある。同じ興味・関心を持つ若者が一堂に会する。大学の研究室を訪問し、研究者に触れる。そして国際

大会では各国トップの成績を誇る若者と交流する。全て、今まで会ったことのない人とのコミュニケーションである。加えて、国内外の、日常生活とは全く異なる「慣れない」環境で生活をする。こういった一連の活動は、かけがえのない経験となり、人間力を鍛えることにつながるだろう。

本活動のもう一つの意義は、継続的な人的交流である。例の一つは、過去大会参加者が本選の学生スタッフとして参加することである。選手と近い年齢層の人が触れ合うことで、横だけでなく縦の交流も継続的に行われていくこととなる。「生物好き」な「優秀な人材」が「ずっと」「つながら」場の提供こそ、本活動の意義であることは間違いない。

昨年の日本生物学オリンピックの本選。実験試験(上)と選手たちの交流(下)



(道上達男・国際生物学オリンピック日本委員会委員長・東京大学教授)